

令和6年度 研究・研修スタッフ共同研究
「学校の自走をアシストⅡ！校内研究を支援するための方策」

はじめての 研究主任ガイド



島根県教育センター浜田教育センター



はじめに

本書は、初めて研究主任になる先生へ向けた冊子です。研究主任の先生方の「声」を基に、校内研究について、「研究主任の『声』から考える」「研究の進め方を考える」「学習指導案の書き方を考える」の3つの章で構成しました。

近年の教育改革を受け、校内研究の形は多様化してきています。校内研究の在り方について、一つの正解がない中、各学校の校内研究や校内研修が充実するために、教育センターとして何ができるのかということの研究・研修スタッフとして常に考えてきました。「研究主任になったけど、何から手を付けていいかわからなくて不安」「どのように計画し、進めていけばよいか分からない」「参考になる資料がどこにあるのかわからない」このような研究主任の先生方の不安が少しでも緩和されるよう、この冊子を編集しました。

本書では、知りたいページへすぐにアクセスできるように  ボタンを用意しています。また、「これを読めば校内研究のすべてが分かる!」という建付けにはなっていません。本書で完結するのではなく、これをきっかけに他の情報を知るハブのような役割を目指しています。そのため、紙ではなく、PC 等の画面上で見えていただくことを前提に作成しています。二次元コードや画像をクリックすることでそのウェブサイト等に行けるようにしていますので、参考にしていただけたらと思います。

より分かりやすくするために、具体的な例を多数あげていますが、児童生徒や学校によって状況は様々です。一つの例として考えていただき、学校の状況に合わせてどんどん変えながら活用してください。

本書が、校内研究を進めていく際の一助になり、研究主任になられた先生方の不安を少しでも和らげることができると願っております。

【本冊子の特徴】

- ・3つのテーマで分かりやすく。
- ・対話形式で読みやすく。
- ・読みたいところから読みやすく。( を押すとそのページにジャンプ)
- ・外部資料も参照しやすく。(二次元コードを使用し、多数のウェブサイト等を紹介)

目次

1. 研究主任の「声」から考える

・すべての教員が校内研究に参加しないとイケないのか？	1
・研究主任の仕事とは？	1
（1）研究のテーマ決め	3
（2）参考資料の収集	4
（3）教職員の研究に対する意識	6
（4）校内研究の推進	7

2. 研究の進め方を考える

・校内研究を進めるにあたって	8
（1）校内研究の組織	9
（2）研究構想の立て方	10
（3）子どもの実態とめざす子どもの姿	11
（4）手立て・内容（研究仮説）	11
（5）研究の目的	12
（6）研究主題	12
（7）検証方法	13
（8）研究計画	14
（9）授業研究	15
（10）研究授業	16
（11）研究協議	16
（12）研究のまとめ方	17
（13）研究のまとめ（紀要、研究実践収録等）の作成例	18

3. 学習指導案の書き方を考える

・学習指導案の役割	20
（1）学習指導案作成手順例	21
（2）学習指導案例	22
（3）単元名（題材名/主題名/議題）	23
（4）教材（題材/主題）観	24
（5）児童生徒観	25
（6）指導観	26
（7）単元（題材）の目標（ねらい）	27
（8）単元（題材）の評価規準	28
（9）単元（題材）の指導と評価の計画	29
（10）本時の学習（目標&評価基準）	30
（11）本時の学習（展開）	31
（12）「学習指導案の書き方」に関する資料	32
・チェックポイントリスト	34

参考文献・引用文献	35
-----------	----

1. 研究主任の「声」から考える

まず、法令等から研修の必要性や今求められている教職員の姿を確認し、次に、令和6年度に行った研究主任アンケートの回答から、研究を進めていく上でのヒントを紹介します。

■すべての教員が校内研究に参加しないといけないのか？

研修に関する根拠法令を見てみましょう。

教育基本法第9条

- 1 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。
- 2 前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適性が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。

教育公務員特例法第22条

教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。

これらのことから、教員が研修を行うことは義務であることがわかります。しかし、それと同時に教員の権利でもあります。私たち教員は、勤務時間の中で研修を行うことができるということです。ただ、日常の多様な業務がある中、個人で研修を行うことは容易ではありません。では、どのように研修を行っていけばよいのでしょうか。日本の学校には、「校内研究」という伝統があります。一人一人で行うのは難しいかもしれませんが、教職員全員で学校の課題等を研究主題にして研修を進めていくことはできます。この「校内研究」を、どのように充実させていくかということは、今後さらに重要になってくると考えます。

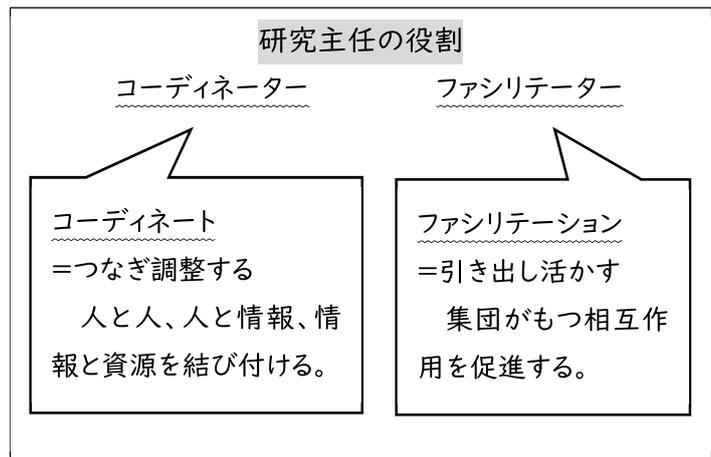
■研究主任の仕事とは？

校内研究の充実をめざし、ここでは、研究主任の仕事や役割について考えていきます。まず、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、今求められている教職員の姿を確認してみましょう。

文部科学省中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」では、次のようにあります。

- 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている。
- 子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。
- 子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。

さらに、「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)」には、「個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて『主体的・対話的で深い学び』を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形である」とあります。



つまり、教師の学びである研究も「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。その視点から研究主任の役割を考えると、教職員一人一人の思いを引き出し、一人一人の学びをつなぐ、教職員の研究のコーディネーターやファシリテーターとしての姿が求められているといえます。

研究主任の仕事としては、「研究計画の立案・実施・まとめ」、「校外内の諸連絡・調整」、「教職員間の共通理解・情報共有の推進」などがあります。「研究計画の立案・実施・まとめ」については、8ページから詳しく説明をしていますので、そちらをご覧ください。「校外内の諸連絡・調整」は、研究を進めていくために日程調整などをする事です。教務主任と年間のスケジュールを調整したり、外部講師に連絡を取ったりなどが考えられます。様々な方面との連絡・調整で研究がスムーズに進みます。「教職員間の共通理解・情報共有の推進」は、めざす子どもの姿や教職員一人一人の思い、子どもたちの日々の様子などを教職員で共有する機会を充実させることです。ここが充実すると同僚性が高まり、校内研究が活性化され、学校の教育力の向上につながります。

研究主任の仕事は、とても重要なものばかりです。だからこそ、一人で抱え込まず、みんなで試行錯誤しながら研究を進めていきましょう。

研究主任の仕事

- 研究計画の立案・実施・まとめ
- 校外内の諸連絡・調整
- 教職員間の共通理解・情報共有の推進

研究主任として心がけたいこと

- 一人一人の思いを知り、良き相談相手になる。
- 試行錯誤(実践)しながら、みんなでつくっていく。

次の頁からは、研究主任の先生方にご協力いただいたアンケート結果をもとに、以下の4つについて一緒に考えていきましょう。

- 1 研究テーマは、いつどうやって決めているの? 
- 2 研究を進めるにあたり、どのような資料を参考にしているの? どうやって入手した? 
- 3 研究主任は、校内研究の効果や課題をどう感じている? 児童や生徒のためになっているの? 
- 4 校内研究を進めるために必要なことは? 

(1) 研究のテーマ決め

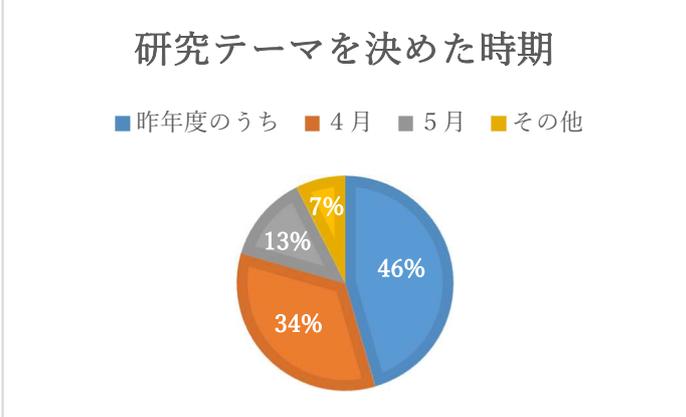


研究テーマは、いつどうやって決めているの？

【研究テーマはいつ決めているの？】



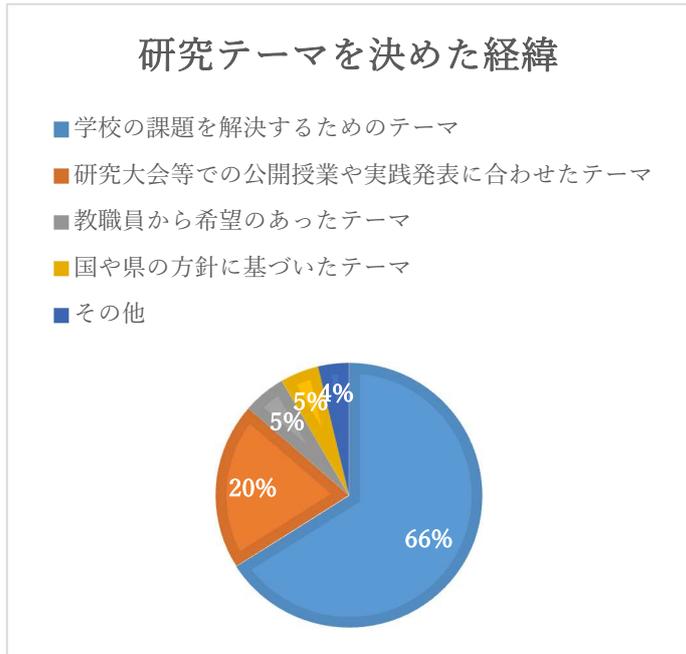
昨年度のうちを決めた学校が46%程度、5月までに決める学校が93%で、ほとんどの学校が5月までに決めているようです。その他にも、「研究発表の指定を受けた際」、「昨年度に決め、今年度当初にもう一度検討」という学校もありますよ。



【研究テーマはどうやって決めるの？】



「学校の課題を解決するためのテーマだから」が66%と最も多く、学校の教育目標やめざす児童生徒像をはじめとした、学校経営計画に位置付けた研究を推進している学校が多いようです。また、「研究大会等での公開授業や実践発表に合わせたテーマだから」は20.4%あり、研究大会等をきっかけに教職員全員で研究をしようという学校もみられますよ。



実際の学校の研究テーマを以下に記しました。様々なテーマで研究主題を立てている学校があることが分かります。研究主題の設定の仕方については、「2.(6) 研究主題」(12 ページ)を参考にしてください。



【研究主題例】

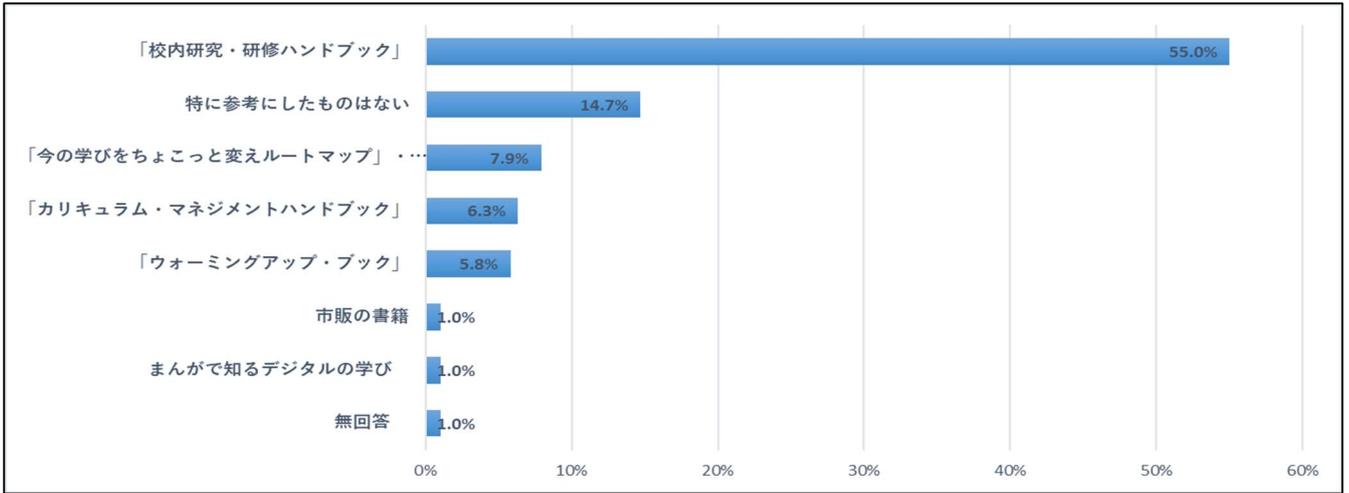
- ・豊かな心と確かな力を身につけるための主体的・対話的で深い学びの追究～ICTを活用した実践を通して～
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学びに向かう生徒の育成～授業と家庭学習を効果的につなげた取組～
- ・思考力・判断力・表現力を高め合う子どもの育成 ～各教科等の「見方・考え方」を働かせた授業づくりの実践から～
- ・自分の思いや考えを伝え合いながら、考えを深めようとする生徒の育成～人間関係づくり・集団づくりを基盤として～
- ・学びをつなぎ、深める子どもの育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～
- ・自他を大切に支え合う中で、向上していこうとする生徒の育成～人権教育を通して～

(2) 参考資料の収集

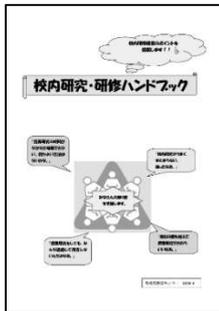


研究を進めるにあたり、どのような資料を参考にしているの？どうやって入手したの？

【研究を始めたり進めたりするにあたり、どのような資料を参考にしているの？】(複数回答可)



多くの方が、島根県教育センターの刊行物を参考にしてくださっていますね。これらは、島根県教育センターの HP 内にあります。ぜひご活用ください。下にある画像を「クリック」すると、ウェブサイトを見ることができます！



「校内研究・研修ハンドブック」
多くの先生方に読んでいただいています！



「ウォーミングアップ・ブック」
研究の定義、種類などから事例、学習指導案の書き方まで網羅しています。この冊子を作るきっかけになった冊子です。



「今の学び方をちょこっと変えルートマップ」
(個別最適な学びと協働的な学び) 研修で使える動画資料もあります！



また、研究や校内研修を進めるにあたって、「こんな資料が欲しい!でもどうやって探せばよいかわからない…」という「声」を多数いただきました。
次に、研究主任の先生方の「声」と共に、参考になりそうなウェブサイト等を紹介します。
ご参照ください。

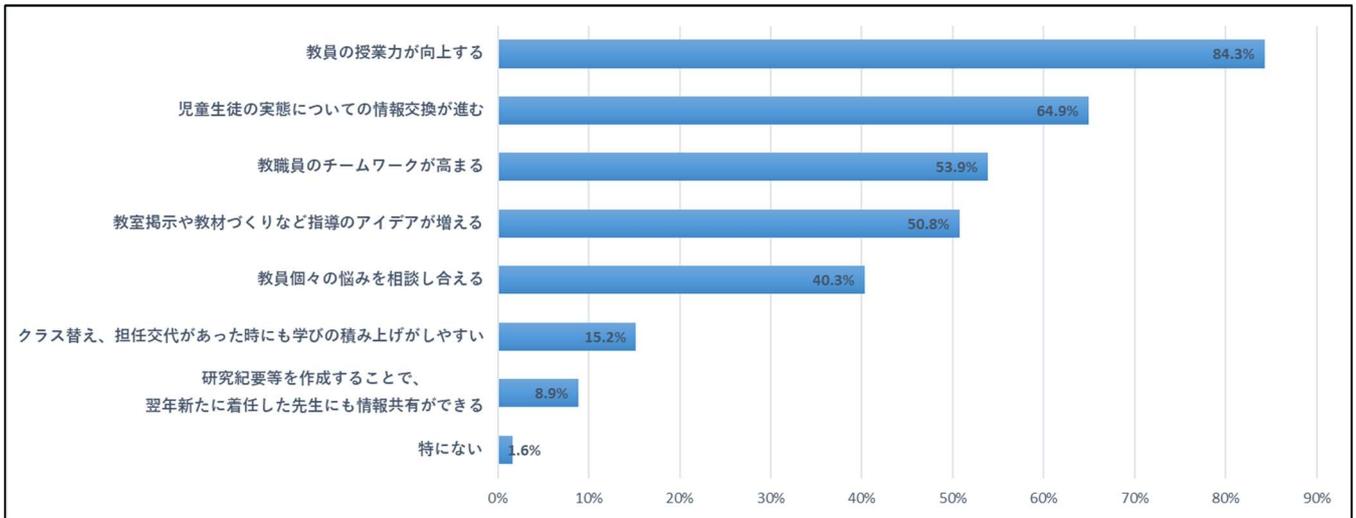
研究主任の声	参考資料について
・研究の進め方(テーマの決め方、仮説の立て方、検証方法、研究のまとめ、年間の見通し、研究協議の進め方)が知りたい!	・本書のp8~にまとめました。  ・本書を作成するにあたり、島根県以外の行政機関が作成したものを参考にさせていただきました。「参考文献」(p35)もご参照ください。 
・ICT 活用の実践例や、教科等に関する実践が知りたい!	・StuDX Style (スタディーエックススタイル) 文部科学省  ・しまね教育情報 Web (EIOS) 
・教育改革に関する新しい資料が見たい! ・校内研修でそのまま使える動画やスライド資料が欲しい!	・文部科学省 HP  ・中央教育審議会  ・NITS 独立行政法人教職員支援機構 (校内研修で使える動画やスライド資料がたくさんありますので、ご覧ください。) 
・現行の学習指導要領にあった学習指導案の書き方を分かりやすく教えてほしい!	・本書のp20~にまとめました。  (学習指導案の決まった書き方はありません。学習指導要領や教育観が変わると書き方も変わってきます。) ・NITS 独立行政法人教職員支援機構 (分かりやすい動画やスライド資料があります。) 

(3) 教職員の研究に対する意識



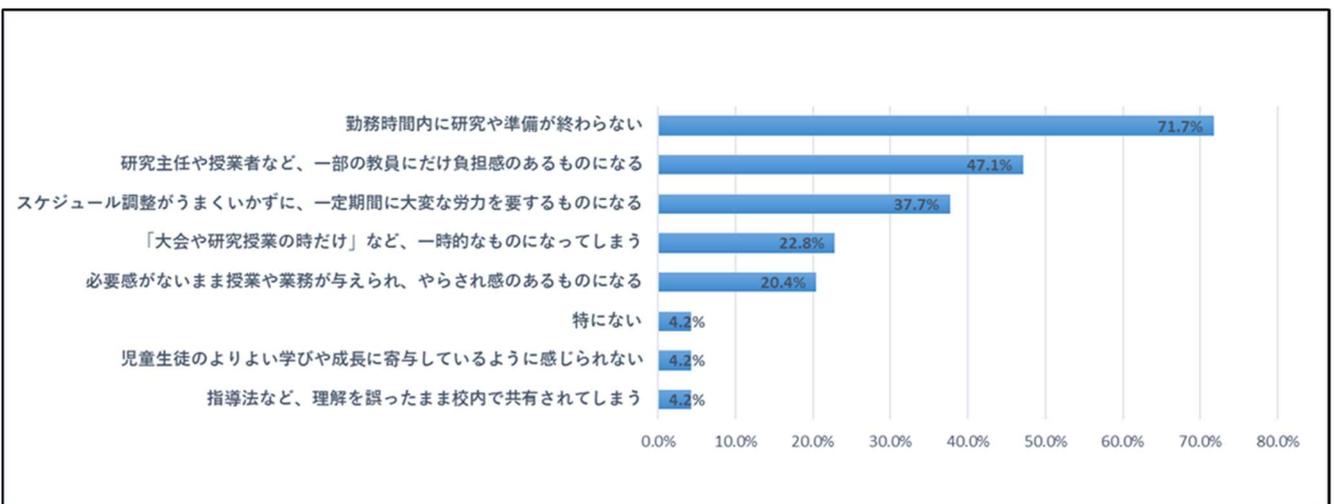
研究主任は校内研究の効果や課題をどう感じている？
児童や生徒のためになっているの？

【校内研究の効果は？】



「教員の授業力が向上する」「児童生徒の実態について情報交換が進む」「教職員のチームワークが高まる」などの意見が多いですね。授業力が向上するだけでなく、教職員間の対話が増えていることが読み取れます。校内研究を通して、教職員間の対話による連携が強化されていることが分かりますね。

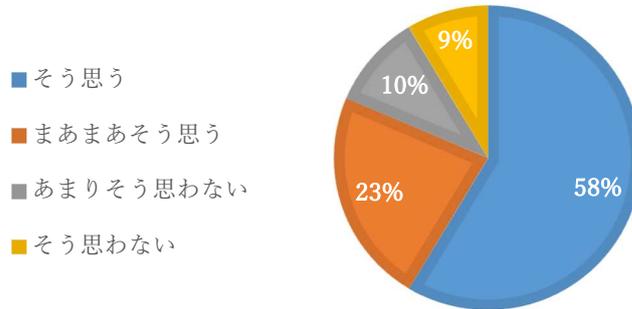
【校内研究について、課題に感じることは？】



「勤務時間内に研究や準備が終わらない」「一部の教員だけに負担感」「スケジュール調整が難しい」など、様々な課題や悩みを抱えていることが分かります。全てを研究主任が行うのは難しいですね。まずは、どのようにしたら教職員を巻き込んで研究を進められるのかを考えることが、充実した校内研究を進めるためのポイントになりそうですね。

【校内研究は教職員にとって良い学びの機会となり、児童生徒や日々の仕事に還元されている?】

校内研究は教職員にとって良い学びの機会となり、
児童生徒や日々の仕事に還元されていると感じますか



肯定的な意見が81%もありました。
校内研究は教職員の学びとなり、それが子どもたちへ還元されていると実感している研究主任の先生方が多いようです。
一緒に研究を行う先生方にもその実感を味わってもらうため、どのように研究を進めていけばよいのか、次の章から、一緒に考えていきましょう!

(4) 校内研究の推進

校内研究を進めるために必要なことは?



【研究主任の声】

年間のスケジュールを計画、提示し取り組む予定だったが、日々のことに追われ、計画通りにいかないことの方が多かった。年度当初、また1学期の間にスケジュールを修正、共有して推進していくことが必要だったと今は感じています。



全教職員で取り組んでいるという組織的な取組にすること。授業者だけではなくチームで教材研究をしたり、授業後も参観者が学んだことを自身の授業づくりに生かしたりできるようにすること。年間計画を具体的に作成し、全員が見通しをもって取り組めるようにすること。全員に役割があるように分担したり、全員で共有できるように研究便りを発行したりすることが必要です。



アンケートに協力いただいた191校の研究主任の先生方の声をまとめると、

- ①「年間計画やスケジュール調整の重要性」
- ②「組織的な取組」
- ③「教職員の主体性と必要感」
- ④「コミュニケーションの促進」
- ⑤「業務の精選と時間の確保」

この5つに分類されました。

日々多くの業務を抱えながらの研究のため、スケジュールの調整をしながら、教職員全員が見通しをもち研究を進めていくことが大切です。教職員が主体的に研究に取り組むためには必要感を感じる事が重要であり、学校の課題を把握するとともに、研究を進めるための時間をどのように確保するかがカギになりそうです。

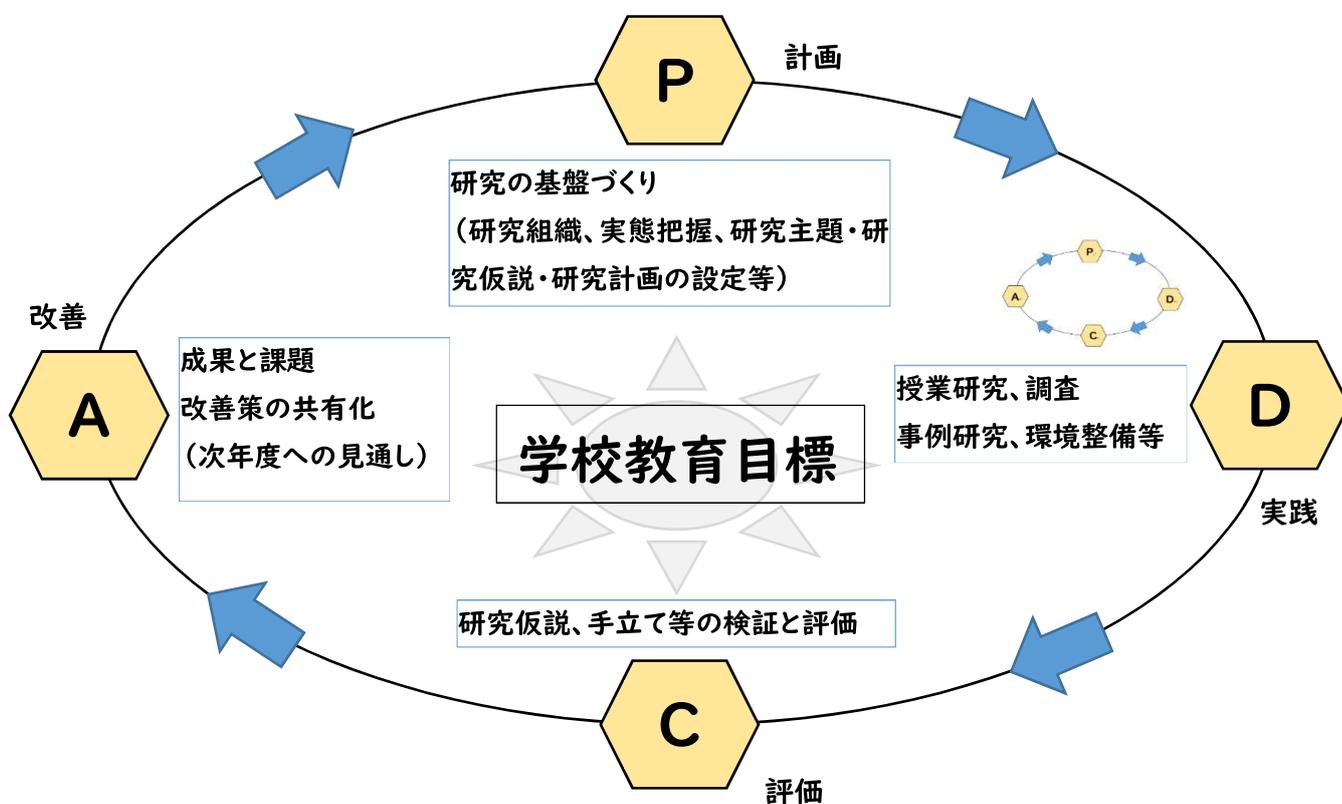


2. 研究の進め方を考える

研究組織のつくり方、研究構想の立て方（研究主題、研究の目的、研究仮説、検証方法、研究計画）、授業研究、研究のまとめ方など、研究を進める際のポイントを説明します。研究をどのように進めていけばよいのかを考えてみましょう。

■校内研究を進めるにあたって

校内研究の進め方は様々あると思いますが、計画に基づいて実施し、成果と課題を検証して、次の計画に向けて改善するという PDCA サイクルを回していくことも方法の一つです。1年間（時には〇年計画）という大きな単位でPDCA サイクルを回していくこともあれば、日々の実践を通して、小さい単位でPDCA サイクルを回していく場合もあります。いずれの場合もPDCAを意識して計画的にすすめることが大切です。



P 計画

Pでは、研究の基盤づくりをしていきます。

実際にどのような研究を、どのように進めていくのかにあたって、10ページのような研究構想シート（島根県教育センター浜田教育センター作成）を利用することもできます。研究を行う前に、研究構想をしっかりと立てておくことが、研究を進める上だけでなく、研究をまとめる際にも効果的です。ここでは、どのように研究を進めていけばよいのかを、PDCAサイクルと関連させながら考えてみましょう。

(1) 校内研究の組織

学校全体で研究を進めていくために、まずは何をしたらいいですか？



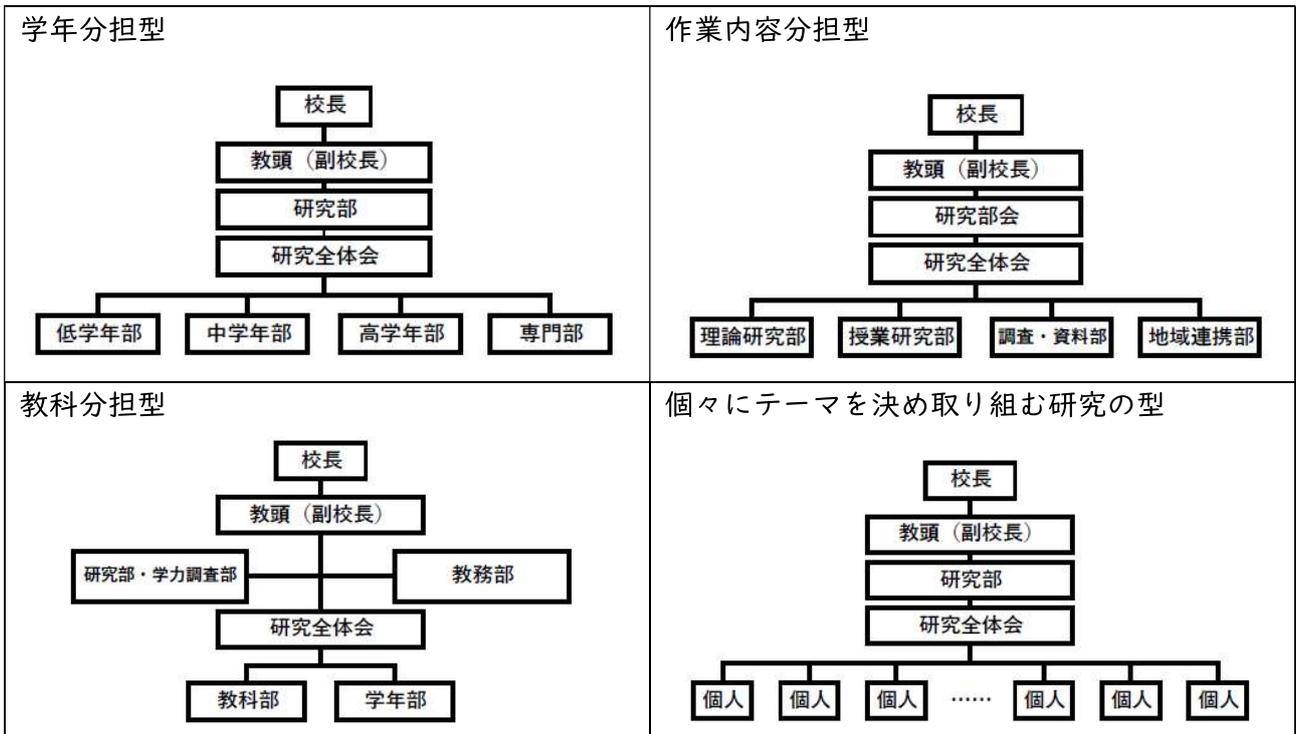
校内研究を進めるための組織を作る必要があります。
 校内研究は、文字通り校内の先生方が一丸となって授業改善等に挑むチャレンジであり、組織図1つとっても様々です。研究体制は、一般的には研究を推進する要となる研究部等を組織しつつ、学校全体の組織化を考えて整えていくことになります。



校内分掌組織やこれまでの研究組織を参考にしましょう！
 計画・実践・評価・改善のための役割分担、校長・教頭（副校長）・研究主任のリーダーシップ、主体的に研究に参画するメンバーシップ、温かい人間関係と学び合う雰囲気を大切に…。



校内研究の組織図（例）



(澤井陽介(2024)「校内研究のつくり方 ~教師自らがともに学ぶ主体的・対話的で深い研究を実現する!~ 東洋館出版社」を参考に著者作成)

(2) 研究構想の立て方

研究をどのような手順で進めていくといいですか？



ここでは研究構想シートを例に説明してみます。シートの記入はどこから始めてもよいですが、図の①～⑦の順序で進めていくと、研究の構想が立てやすくなるのではないかと思います。

シートの記入について **GO** マークがあるところは、説明ページがあります。詳しくはそちらをチェックしてみましょう。



A 研究主題 ⑤ GO		学校名	
B 研究の目的 ④ GO		氏名	
A 研究主題			
B 研究の目的			
C 子どもの実態	E 手立て・内容（研究仮説） ③ GO	D めざす子どもの姿 ② GO	
C 子どもの実態 ① GO			
	F 検証方法 ⑥ GO		
	G 研究計画 ⑦ GO		

各学校には「学校教育目標」が設定されており、どのような子どもを育てるのが示されています。まず、目の前の子どもたちをよく見ていると、良い点や課題が見えてきます。これが、①「C 子どもの実態」です。すると、学校教育目標と子どもの実態の間にずれがあることに気づきます。そこで、どのような子どもの姿をめざすのか、②「D めざす子どもの姿」を明確にしていきます。そしてその姿を実現するために、作戦つまり③「E 手立て・内容（研究仮説）」を立てていきます。もちろん、子どもたちの良い点を伸ばすための③「E 手立て・内容（研究仮説）」を立ててもかまいません。研究仮説について議論し設定された後、④「B 研究の目的」、⑤「A 研究主題」を設定します。研究主題は、研究仮説を端的に表したものとなります。次に、⑥「F 検証方法」、⑦「G 研究計画」が設定され、研究構想が完成します。

(3) 子どもの実態とめざす子どもの姿



実態を把握する方法は「アンケート」をとる方法でいいですか？



アンケートから数値として客観的に見ていくことも1つの方法です！
ノートやワークシート、作品などの成果物や、学力調査などの結果を見ていくこともできます。また、教職員で観察した子どもの姿をもとに話し合うことも大切です。あわせて、「めざす子どもの姿」も、学校教育目標に基づいて到達度を把握できるような具体的な姿で示しましょう。

～実態把握をするにあたって～

子どもたちの実態把握をきちんと行い、進めようとしている研究と子どもたちの実態が合っているかを確認しましょう。子どもたちの抱えている課題だけでなく、子どもたちの強みにも目を向けてみましょう。

どの方法をとっても、先生方が十分に意見交換することが大切です。



(4) 手立て・内容 (研究仮説)



どうやって研究仮説を立てたらいいですか？



子どもの実態を「めざす子どもの姿」に近づけるために、「こうしたらよいのでは？」という手立てを考えてみましょう。研究仮説とは、その研究の指針や大まかなビジョン、具体的な検証が可能である内容などを示しています。研究仮説の設定は、研究を意味のある(必然性のある、成果のある)ものとするためにとても重要です。

～研究仮説のつくり (例)～

〇〇において、△を△することによって、・・・□□になるであろう

〈内容 (場)〉

〈方法 (手立て)〉

〈目的 (ねらい、めざす子どもの姿)〉

「対象領域・分野」

研究対象としている教科、領域、分野を限定し、対象の焦点化を図る

「研究の具体的な手立て」

具体的な方法、手立てを明示し条件整備を表す

「研究のねらい」

めざす子どもの姿を端的に表す



(5) 研究の目的



研究の目的は何を示していますか？



この研究で何を明らかにし、何を追究しようとするのかを示したものです。研究の方向を示し、研究の達成度（ゴール）を示す意義があります。研究のゴールとしてどのような子どもの姿をめざしたいのかを共通理解することで、日々の授業づくりや研究の方向性が定まります。研究仮説が決まれば、研究の目的も見えてきます！

「対象領域・分野」

研究対象としている教科、領域、分野を限定し、対象の焦点化を図る

「研究の具体的な手立て」

具体的な方法、手立てを明示し条件整備を表す

～研究の目的のつくり（例）～

〇〇〇〇の指導において、△△△△の工夫をすれば、□□□□になること

〈内容〉

〈方法〉

〈目的〉

を実践を通して、明らかにする。

「研究のねらい」

めざす子どもの姿を端的に表す

(6) 研究主題



研究主題は研究仮説や目的とどうつながっていますか？
また、どのように表すといいですか？



めざす子どもの姿とそのための手立て・内容（研究仮説）、研究の目的が整理されていると、研究主題が明確となります。つまり、研究主題とは、研究の目的や手立て・内容（研究仮説）を端的に示したものになります。

また、研究主題は、研究仮説や研究の目的にも示したように目的・内容・方法の3つの要素を含むようにしましょう。主題と副主題は一体として吟味することが必要です。副主題において手立て（方法）を明確にすることが、主題に迫ることにつながります。

主題が大きすぎて、めざす子どもの具体的な姿がイメージできていない場合があります。みんなで進められるような分かりやすい研究主題にすることが大切です！

～研究主題の表現のしかた（例）～

「研究のねらい」
めざす子どもの姿を端的に表す

「対象領域・分野」
研究対象としている教科、領域、分野
を限定し、対象の焦点化を図る

主題

〈目的〉 + 〈内容〉

□□□□を育てるための○○○○指導の在り方

副主題

～ 〈方法〉 ～

「研究の具体的な手立て」
具体的な方法、手立てを明示し条
件整備を表す

～△△△△の工夫を通して～

研究主題例はこちらから



(7) 検証方法



何かいい検証方法がありますか？



方法としては、研究協議、学力調査、アンケートなどによる意識調査の結果の分析、子どもの発言、レポートの記述等から検証する方法があります。

～検証方法例～

●研究協議

研究授業に向けて、協働で教材分析、学習指導案を作成し、研究授業を実施したあと、研究協議で、子どもの姿を根拠に検証していきます。

●学力調査・アンケート等

学力調査は、先生方も実際に解答してみることで、「どこが理解できていない」「なぜ身についていない」など、授業改善のヒントにつながります。また、客観的な分析をするために、研究に沿った内容のアンケートを作成し、子どもたちの変容を数値化して検証していきます。

●子どもの発言、レポート等の記述

学習過程における子ども一人一人の変容を評価することで、検証していきます。



(8) 研究計画



研究計画を立てるうえでのポイントがありますか？



行事等も含めて1年間の学校全体の動きを確認しながら、年間スケジュールを計画していくことが大切です。また、夏休み等の長期休業を上手く活用することで、ゆとりをもって校内研究に取り組めるようになると思います。計画を作成して示すことにより、みんなで共通理解を図り、見通しをもって取り組みましょう。

～国語の「書くこと」をテーマに研究を進めてきている県内小学校の研究計画例（2年次）～

月	研究・研修
4月	<p>P ■ 研究の基盤づくり (Plan)</p>
5～6月	<p>D ■ 研究を推進する (Do)</p> <p>学習指導要領についての文献輪読①</p> <p>実態把握</p> <p>児童へのアンケート、作文</p> <p>第1回授業研究会</p> <p>〈協働による授業づくり〉</p> <p>構想立案 学習指導案作成 模擬授業・事前授業 指導構想・学習指導案の改善 授業実践 研究協議</p> <p>日々の授業実践</p> <p>〈自分自身の授業実践〉</p> <p>協働による話し合いを受けて、「研究=日々の授業」となるように、校内研究との関連を図る</p> <p>成果と課題のリレー</p>
8月	<p>夏季校内研修</p> <p>学習指導要領についての文献輪読②</p> <p>外部講師を活用した研修会</p> <p>子どもの実態分析、作文分析</p> <p>国語研修会参加者の報告会</p> <p>中堅研計画発表会</p> <p>第2回授業研究会</p> <p>第3回授業研究会</p>
10月	<p>中堅研中間発表会</p>
1月	<p>C ■ 研究の検証と評価 (Check)</p> <p>実態把握</p> <p>児童へのアンケート、作文</p>
2月	<p>A ■ 研究の成果と課題のまとめ (Action)</p> <p>中堅研最終発表会</p> <p>研究紀要作成</p> <p>来年度に向けての改善点の整理</p>



実践



をやってみよう!!

Pで立てた計画を基に全員で実践していきます。

ここでは、特に、授業研究についての進め方や意義、研究協議の工夫例についてまとめています。

(9) 授業研究



授業研究を進めていくポイントを教えてください!



ここでもPDCAサイクルを回していきます。教材研究や学習指導案の検討にチームで取り組めるような体制をつくるのが大切です。また、授業参観の視点、研究協議の進め方を事前に検討しておくといいです。そして、研究協議後、全員が自分の授業実践に生かせるようにしていきましょう!

～授業研究の進め方(例)～(ポイントをチェックしながら進めていきましょう!!)

P 授業づくりの構想 (Plan)

ア 教材分析

- 単元の目標(ねらい)は明確になっていますか。
- 子どもの実態把握はできていますか。
- 協働で教材研究に取り組んでいますか。

イ 検証につながる学習指導案の作成

- 本時の目標(ねらい)に迫る学習課題になっていますか。
- 検証につながる手立て(方法)が具体的に示されていますか。

ウ 事前検討会や模擬授業の実施

- 学習指導案検討や模擬授業で検証の観点を共通理解しましたか。

D 研究授業の実施 (Do)

ア 研究授業の役割分担の工夫による協働意識の高揚

- 協働で役割をもつような研究授業の役割分担(子どもの観察・記録等)を工夫しましたか。

C 研究授業の検証 (Check)

ア 検証方法の工夫

- 研究協議の持ち方を工夫していますか。

A 授業改善の視点の整理と次の授業へのつなぎ (Action)

ア 研究の視点に沿った振り返り

- 研究の視点における成果と課題を整理していますか。
- 今後につながるよう実践の成果と課題を共有できていますか。



授業者だけが教材と向き合うのではなく、みんなで教材研究を行うことで、授業改善への気づきが多くなります!

・<方法>させたことは、<内容>を明らかにする上で有効であったか。
・<方法>させたことは、<内容>の考えをつくる上で有効であったか。



(10) 研究授業

研究授業って大変なイメージですが、どんなよ
さがあるのですか？



自分の授業を振り返ることができます。自分ひとりだと「本当はどうか？」と
思うことがあり、他の先生方からの意見が、今後の授業改善に向けてのヒントに
なります。授業を見た先生も、日々の授業を振り返る機会とし、自分の授業改善
につなげていく機会になります。また、授業者とともに教材研究を行うことがで
きれば、さらに授業改善への気づきが多くなります！

～「主体的・対話的で深い学び」へ～

授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」は、子どもにとってのみならず、教師自身の
学びの姿でもあってほしいです。授業者ばかりに着目しがちですが、参観者にとっても自分を成長さ
せるよい機会となります。学年や教科が違うからこそその気づきもあるでしょう。そのために、チーム
(共同研究者)として授業に臨む姿勢が大切です。

(11) 研究協議

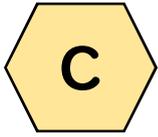
研究協議をどのようにしていいかわかりません…。



研究協議の持ち方については、様々あります。年間を通していろいろ試してみて、自分
の学校にあった方法を見つけていきましょう！

～研究協議の工夫例～

- 「よさ」や「課題」を付箋に書き、それを研究の視点ごとに分類しながら模造紙等に貼る。
- 授業づくりシート（学校や地域ごとに共有されているシート）をもとに、子どもの学びの姿につ
いて見取ったことを根拠にして協議を進める。
- ICTを活用し、見取った子どもの姿について視点ごとに色分けしながらデジタル付箋に書き込みそ
れをもとに協議を進める。
- Yチャートを利用して、見取った子どもの姿を上の部分に、成果（左側）、課題（右側）にまとめ、
それをもとに協議を進める。
- まずは教職員のコミュニケーションを増やすために、ラウンドスタディという方法で気楽な会話を
しながら進める。
- グループ単位で対話し合える場を設ける。例えば、学年部のグループ、教科ごとのグループ、経験
年数の近いグループ、異学年のグループ等、様々な教職員が関わるようにする。



評価・改善

D の実践の後、研究のまとめや評価を行います。

ここでは、校内研究を振り返り成果と課題などをまとめていく手順を示しています。また、研究紀要の意義や作成手順などについても例を示しています。研究のまとめをすることによって、「めざす子どもの姿」がどの程度達成されているのか、どんな手立てや支援が有効だったかを明らかにすることができ、今後の授業改善や授業力向上につなげていくことができます。さらに、子どもの変容から今後の指導の方向性を見取り、それらをみんなで共有することができます。(以下、一例として参考にしてください。)

(12) 研究のまとめ方

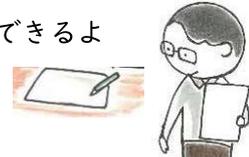
どのように校内研究をまとめていけばよいのでしょうか？



小グループや全体での話し合いを重ねながら、校内研究の成果と課題を中心にまとめていきます。話し合いは、個→小集団→全体と流れていくよう、事前に研究部会等でレジュメ、記入用紙、日程の検討と確認を行っておきましょう。また、それぞれの教職員が成果と課題を考える段階までに、客観的なデータの分析・考察が済んでいるとより深い考察ができます。

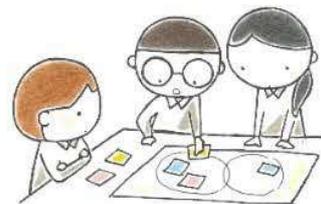
各自でのまとめ

視点とその手立てに沿ってまとめる。視点に基づく成果と課題が考察できるようにその根拠も入れるよう意識する。



学年や教科など小グループでの検討

グループメンバー全員の意見を吸い上げて分析・考察することが大切になる。参加メンバー全員が必ず発言する。各自が考えたものを持ち寄り、成果と課題について深める。その際、成果や課題について、検証の観点を基にまとめていく。



全体的話し合い

全体での話し合いでは、主に以下の事柄について検討する。

- 仮説や視点は、主題・副主題を検証するのに有効であったか。成果と課題の共有を図る。
- 授業実践によって子どもに変容が見られたか。
年度当初に立てた「めざす子どもの姿」と、まとめ段階での子どもの実態を照らし合わせ、伸びたところと、伸び悩んでいるところを確認することで、次年度の計画構想（グランドデザイン）につなげることができる。



(宮城県大河原教育事務所 (2018)「授業改善・授業力向上をめざす校内研究の進め方 ~協働による授業づくりを通して~」を参考に著者作成)

今後に向けて(次年度への準備)

年度の初めは、何かとやるべきことが多く慌ただしい日が多いです。そのため、年度末に校内研究の見直し・改善を行うようにすると、次年度の校内研究をスムーズに進めやすくなります。そのためには、「学校教育目標」や「めざす子どもの姿」等に近づいているかどうか、これまでの取組をしっかりと振り返り検証していくことが大切です。そして、今後の校内研究の方向性について考えておくとうよいと思います。

次年度は、新しく着任した教職員を含めて、前年度末に見直した研究の在り方・方向性について、改善に向けての具体的な実効策を考えていきます。



(13)研究のまとめ(紀要、研究実践集録等)の作成例

研究のまとめとして、何か冊子やファイルを作成したほうがよいのでしょうか？



研究のまとめを作成することで1年間の校内研究の足跡が「見える化」され、より深く振り返ることができます。また、次年度以降の校内研究をスムーズに進めることにつながったり、異動により新しく赴任した教職員に対しても共通理解が図りやすかったりします。作成するかどうかは、研究部を中心に学校の実情に応じて決めるとよいでしょう。

【研究のまとめ(研究紀要、研究実践集録等)】の発信

作成した「研究のまとめ」を学校ホームページ上に掲載することで、保護者や地域への教育活動の公開にもつながります。また、近隣の小中学校と「研究のまとめ」を交換することで、お互いの校内の状況や共通点を知ることができます。積極的に情報を発信し、校内研究の更なる深まりを求めていきましょう。

<研究のまとめの作成・発信手順（例）>



それぞれのステップで、役割分担等を行い、協働的にまとめをしていくことが大切です。

ステップ1	【研究部会】 ○研究のまとめ作成計画案の検討 内容と担当の割り振り、日程、様式の検討
-------	---



ステップ2	【全員】 ○研究のまとめ作成計画案の検討・調整・共通理解 研究主任を中心に、上記の視点についてまとめた資料を作成
-------	---



ステップ3	【各担当】 ○実践資料（学習指導案、プリント、授業記録、事前（模擬授業等）・事後検討会の記録、写真、子どもの作文、アンケート等の調査分析結果）の整理 ○参考文献、資料の整理
-------	---



ステップ4	【各担当】 ○原稿の執筆 研究部会等から示された原案を全員で検討
-------	---



ステップ5	【研究職員会】 ○執筆原稿の検討（内容・表現について） 研究職員会での話し合いを経て、研究部会等で原案を修正
-------	---



ステップ6	【研究部会・各担当】 ○印刷・校正
-------	-----------------------------



ステップ7	【研究部会・各担当】 ○学校ホームページに掲載 ○近隣の小中学校と「研究のまとめ」の交換
-------	---

（宮城県大河原教育事務所（2018）「授業改善・授業力向上をめざす校内研究の進め方 ～協働による授業づくりを通して～」を参考に著者作成）

3. 学習指導案の書き方を考える

研究の中では、授業実践のための学習指導案作りをすることが多いと思います。また、学習指導案は日常で最も行われることの多い最小単位の研究でもあります。研究としての視点から、学習指導案を書くことの意味を考えてみましょう。

■学習指導案の役割

学びの地図

学習指導案を作成することは、「何ができるようになるか」（育成をめざす資質・能力）を明確にし、児童生徒が「何を学ぶのか」、「どのように学ぶのか」という授業の流れと内容を具体的に考えていくことです。

指導者は、年間指導計画に基づいた系統性や単元全体の目標、対象となる児童生徒の実態や課題をふまえて、どのような学習活動を通して指導していくのかという単元を構想したうえで、毎時間の流れと内容を考え、必要な準備をしていきます。これを書き表したものが学習指導案であり、目標(ねらい)に到達するまでの「学びの地図」となります。(NITSの動画資料より)

「学習指導案」とは



授業研究 = 教育活動を振り返る (リフレクション) = 指導力の向上

～|↑＝ 独立行政法人教育委員会事務局

指導力の向上

学習指導案を作成することで、その教科や指導、児童生徒への理解が深まることは間違いありません。学習指導案は「学びの地図」としてだけでなく、授業後の授業記録としても活用することができます。

授業後には、児童生徒の様子や自分自身の指示や発問等を振り返って成果や課題を明らかにすることができます。その際、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点などが書き込まれた学習指導案は授業記録としての役割を果たし、研究協議の話合いを深め、改善案や有効な手立てを出し合うことで、次の授業構想への準備にもなります。こうした、自らの教育活動を振り返るリフレクションを繰り返すことが指導力の向上につながっていくのです。

「何ができるようになるか」というゴール。ゴールへ進むにはどのようなルートがあるのか、ルートは他にもないのだろうか、そのルートを子どもたちが進む際にどんな道具があれば進むことができるだろうか、ゴールをしたときの子どもの姿はどんな姿だろうか、ゴールすることで子どもたちは将来、何ができるようになるのだろうか…。「学びの地図」を設計するためには、考えていかなければいけないことがいくつもあります。ここでは、どのように「学びの地図」を設計していくとよいのか、いくつかポイントをまとめてみました。



(1) 学習指導案作成手順例



学習指導案を作成する際、どのような手順で考えていくとよいか、一例を紹介します。

第○学年○組○科学学習指導案
 日時：○年○月○日(○)校時
 指導者：○○ ○○
 場所：○○教室

1. 単元(題材/主題)名
 ○○○○○○ ○○○○○○

①どの単元で

2. 単元(題材/主題)の目標

⑤どのような資質・能力が身に付くのか

単元(題材/主題)の評価規準

知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

⑥資質・能力を身に付けた児童生徒はどのような姿なのか

単元(題材/主題)について
 (1) 教材(題材/主題)観(教材/題材/主題について)

②教材等の価値を明確にし、

(2) 児童生徒観(児童生徒について)

③児童生徒の実態や課題を踏まえて、

(3) 指導観(指導について)

④どのように指導していくのか

5. 単元の指導と評価の計画(全○時間 本時 ○/○)

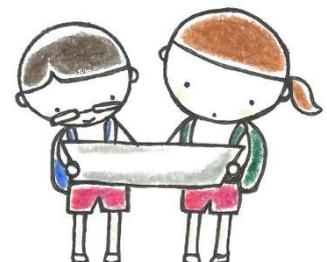
時	目標・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	⑦資質・能力を身に付けるために、		
2	・どのような学習活動をしていくのか		
3	・どのようなことに気を付けて指導するのか		
4	・どの場面で評価するのか		
本時	などを計画する		
5	○○○について考える。	・○○して、○○できるように促す。	[思考・判断・表現]
6	○○○について学んだことを振り	・○○○して、○○○できるように助言する。	□□□することができる。(ワークシート)
6. 本時の学習			
(1) 目標(ねらい)			
□□□□□			
(2) 展開(○/○時)			
⑧本時の身に付けたい資質・能力			
時	学習活動と予想される児童生徒の反応	教師の支援(+)と評価	
5分	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	
15分	⑨本時の目標(ねらい)を達成するために、		
5分	・どのような学習活動をするのか		
	・児童生徒がどのような反応をし、		
	どのような支援をするのか		
	・どうやって評価するのか		
	などを計画する		
(3) 評価			
□	⑩児童生徒の具体的な姿と、身に付けさせるための手立て		
□			

「学びの地図」である学習指導案を作成するにあたって、ゴールへの道筋が分かりやすくなるように順序を示しています。

学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に単元の目標を確認したうえで、教材の価値、児童生徒の実態や課題、どのように指導していくかを考えます。その後、本当に児童生徒の実態に合っているのか、単元のゴールである目標を再確認するために、このような順序を提案しています。

ただ、ここで示している順序や学習指導案はあくまで一例です。

大切なのは、単元で身に付ける資質・能力を明確にし、その資質・能力を身に付けた児童生徒はどのような姿になるのか具体的にイメージすること、そして、そのためにどのような学習活動を行い、どのような指導の工夫や支援をしていくかを考えることです。



(2) 学習指導案例

学習指導案の記載例です。  マークのところを押すと、説明ページへいきますので、詳しくはそちらをチェックしてみましょう。
(マークの数字は、学習指導案作成の際の手順例です。)



教科によって様式が異なる場合があります。

「学習指導案の書き方」に関する資料ページを参考にしてください。



第○学年○組○○科学習指導案

日 時：○年○月○日(○)○校時

指導者：○○ ○○

場 所：○○教室

1. 単元名(題材名/主題名/議題)

○○○○○○○○

2. 単元(題材)の目標(ねらい)

(1) ○○○○○○○○○できる。[知識及び技能]

(2) ○○○○○○○○○できる。[思考力, 判断力, 表現力等]

(3) ○○○○○○○○○しようとする。「学びに向かう力, 人間性等」



3. 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○○○○○○○○○○している。	○○○○○○○○○○している。	○○○○○○○○○○しようとしている。

4. 単元(題材/主題/議題)について

(1) 教材(題材/主題)観(教材/題材/主題について)

本単元は、学習指導要領○○科○学年の内容○○を受けて設定した。本単元は、○○○○であり、○○○○することができる単元である。これまでに「○○」の内容として、○年「○○○」、○年「○○○」などがある。このような学習経験を通して、○○○○できると考える。○○○○することを通して、○○○○する力を育むとともに○○○○することができる単元である。

(2) 児童生徒観(児童生徒について)

本学級の児童生徒は、事前の○○○アンケート(○○調査)によると、○○○○について関心が高いことがわかる。また、○○○○については理解し、定着している児童生徒が多い。しかしながら、○○○○する力がまだ十分に身に付いていない児童生徒が数名おり、○○○○に課題がある。

(3) 指導観(指導について)

本単元は、○○○○しながら、○○○○できるように学習を進めていく。

そのために、第1次では、○○○○できるように、○○○○する活動を設定する。その際、○○○を活用し、○○○させる。次に、第2次では、…。このような学習活動を通して、○○○○につなげたい。

5. 単元(題材)の指導と評価の計画(全○時間 本時 ○/○)

時	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	・○○○について○○○の見通しをもつ。	・○○○するために、○○○の活動を設定する。	
2	・○○○について○○○と関連付ける。	・○○○について例を示す。	[知識・技能] ○○○することができる。(ノート・発言)
3	・○○○について○○○発表する。 ・○○○について○○○交流する。	・○○○して、○○○を確認する。 ・○○○するよう配慮する。	[主体的に学習に取り組む態度] ○○○しようとしている。(観察・ワークシート)
④ 本時			
5	・○○○について考える。	・○○○して、○○○できるように促す。	[思考・判断・表現]
6	・○○○について学んだことを振り返る。	・○○○して、○○○できるように助言する。	○○○することができる。(ワークシート)

6. 本時の学習

(1) 目標(ねらい)

○○○○○○○○を通して(によって/することにより/して)、○○○○○○○○○○する。

(2) 展開(○/○時間)

時	学習活動と予想される児童生徒の反応	教師の支援(・)と評価
5分	1. ○○○○○○○○○する。	・○○○○するために、○○○○を確認する。
15分	2. ○○○○について○○○○する。 ・○○○○○○○○○○だと思う。 ・○○○○○○○○○○できそうだな。	・○○○○して、○○○○できるように助言する。 ・○○○○を使ってできるように○○○○を準備する。
5分	3. ○○○○について○○○○する。 ・○○○○○○○○○○だと思った。 ・次は、○○○○○○○○したい。	[知識・理解] ○○○○○○○○○○することができる。 (ノート・発言) ・○○○○を使い、○○○○の意欲へとつなげる。

(3) 評価

「十分満足できる」と判断される状況	「おおむね満足できる」と判断される状況	「努力を要する」と判断される状況への手立て
○○○○○○○○○○するとともに、○○○○○○○○○○している。	○○○○○○○○○○をして、○○○○○○○○○○している。	○○○○の状況にある児童生徒には○○○したり、○○○したりするようにする。

(3) 単元名 (題材名/主題名/議題)



1. 単元名 (題材名/主題名/議題)
□□□□□□□□



学習指導案の「単元名」って、年間指導計画や教科書に記載されている単元名を書けばいいですか？

その通りです。
ただし、「単元名」のほかに、「題材名」「主題名」など、様々な表記の仕方があります。
どのような力を付けるために、どのような活動を行うかが分かる単元名の設定も大切です。



単元名 いくつかの教材や活動で構成された一連の学習活動を示すもの
(例)
総合的な学習の時間： 単元名「人はなぜ働くのだろうか？～仕事を通して自己の生き方を考える～」
国語科： × 単元名「走れメロス」 「走れメロス」は単元名ではなく、教材名
○ 単元名「『走れメロス』を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう」

題材名 学習の内容やテーマを表したもの
※主に、音楽、図画工作、家庭、美術、技術・家庭等において表記されることがある。
(例)
家庭科： 題材名「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」

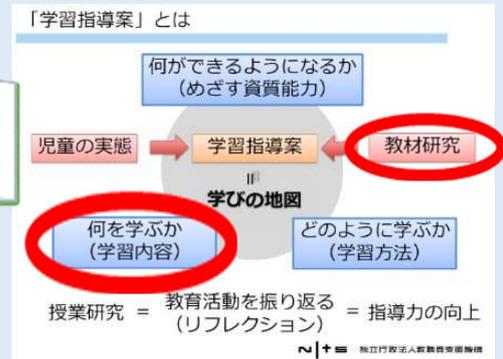
主題名 ねらいとする道徳的価値と教材で構成された主題を端的に表したもの
(例)
道徳科： 主題名「やさしいきもちで」 教材名「はしの上のおおかみ」
ねらい「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる」

特別活動は、内容により「議題」、「題材」で表記する。
(例)
特別活動： 議題「どうぞよろしくの会をしよう」(学級活動(1)ーア)
題材「たべよう やさい」(学級活動(2)ーエ)

☑チェックポイント

- 学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。
- 単元名 (題材名/主題名/議題) が教科、領域に応じた表記になっている。

(4)教材(題材/主題)観



(1)教材(題材/主題)観
 本単元は、学習指導要領□□科□学年の内容□□を受けて設定した。
 本単元は、□□□□であり、□□□□することができる単元である。…

「教材観」「児童生徒観」「指導観」の3つをどのように区別して書けばいいのかわかりません。
 「教材観」のつもりで書いていたのに、それは「指導観」に書きましようと言われてしまいます。
 どうやって書けばいいですか？



教材観を書くことで、その教材がもつよさを再確認することができます。
 学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて、

- ① 何を学ぶか(学習内容)
- ② 何ができるようになるか(めざす資質・能力)
- ③ どのようなつながりがあるか(他学年、他教科、領域・分野、実生活等)

など、指導者が教材に対してどのような見方をもっているのか書きましよう。



道徳科では、ねらいとする道徳的価値(内容項目)等について書きます。
 道徳科の学習指導案については、学習指導要領解説(小P.80、中P.78)が参考になりますよ。

- ①何を学ぶか
- ②何ができるようになるか
- ③どのようなつながりがあるか

本単元は、学習指導要領(4)のア(ア)(ウ)、イ(ア)に関わるものである。
 本単元は、地域の人々が受け継いできた地域の文化財について、保存や継承に関わる人々の働きや願いを調べ、…地域の発展を思う人々の願いがあることを理解できるようにする。

また、単元を通じて、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、地域社会の一員として文化財を受け継いでいくためにできることを考えようとする態度を養うことがねらいである。

児童は、2年生の生活科「町探検」の時に、郷土資料館に出かけ、伝統的な踊りの体験を…学習してきている。
 …そこで、地域の人々が受け継いできた文化財を今後も受け継いでいくために、…地域社会に対する誇りと愛情を育てていきたい。

参考例:小学校・社会

☑チェックポイント

単元を取り扱うことで期待される効果を表現!

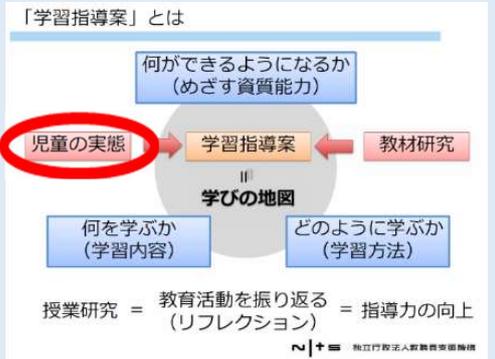
- 何を学ぶか(学習内容)、何ができるようになるか(めざす資質・能力)が記述してある。
- どのようなつながりがあるか(他学年、他教科、領域・分野、実生活等)が記述してある。
- その単元(題材/主題)を取り扱うことにより期待される効果が記述してある。

(5) 「児童生徒観」



(2) 児童生徒観 (児童生徒について)

本学級の児童生徒は、事前の□□□アンケート(□□調査)によると、□□□について関心が高いことがわかる。…



「児童生徒観」は任せてください!
 「明るく元気な学級で発言も積極的…」など、学級の雰囲気や意欲、発言について書けばいいですよ?



それって、本単元に関わることでしょか?
 ここでは、児童生徒の「明るい」「素直」「仲がよい」等の一般的な様子ではなく、本単元の目標や学習内容から見た現状や課題を具体的に書きましょう。その際、指導者の主観だけでなく、事前アンケート、調査物のデータ等の客観的な視点を取り入れると説得力が増します。
 ただし、児童生徒の課題を記述する際には、個人情報保護の観点から、個人を特定できるような記述は避ける必要がありますね。

特別活動では、「児童生徒の実態」として、学級生活における児童生徒の実態や、学級活動における実態などについて書きます。



児童生徒の学習履歴や興味・関心

本学級の生徒は、第1学年のときから仮説を立てて観察、実験を計画する学習場面を設けてきたこともあり、観察、実験を計画し実行する学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い。事前にアンケートを…意識をもっている生徒が多い。

単元(題材/主題)の理解度や習熟度

各種調査の結果から…第1学年の「エネルギー」分野の理解が…ことがわかる。生徒は「エネルギー」についての学習を行ってきたが、「エネルギー」という用語を直接用いた学習をあまり行ってきていない。そのため、エネルギーを抽象的な概念でとらえている生徒が多い。

児童生徒の実態(よさや課題)

このように、「仕事」や「エネルギー」を抽象的に捉えている生徒は、「エネルギー」と「仕事」の関係を見いだすことについて困難さが増すことが考えられる。

☑チェックポイント

参考例: 中学校・理科

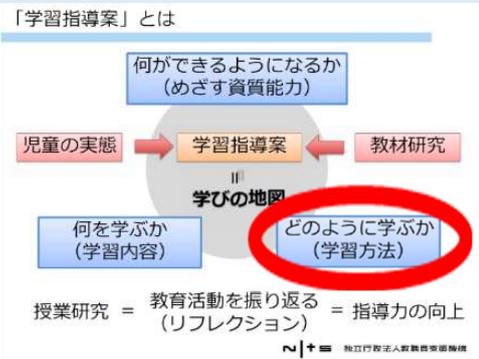
- 単元(題材/主題)に対する学習履歴、興味・関心の度合い等が記述してある。
- 単元(題材/主題)に対する理解度、習熟度等が記述してある。
- 単元(題材/主題)に対する児童生徒の実態(よさや課題)が記述してある。

(6) 「指導観」



(3) 指導観(指導について)

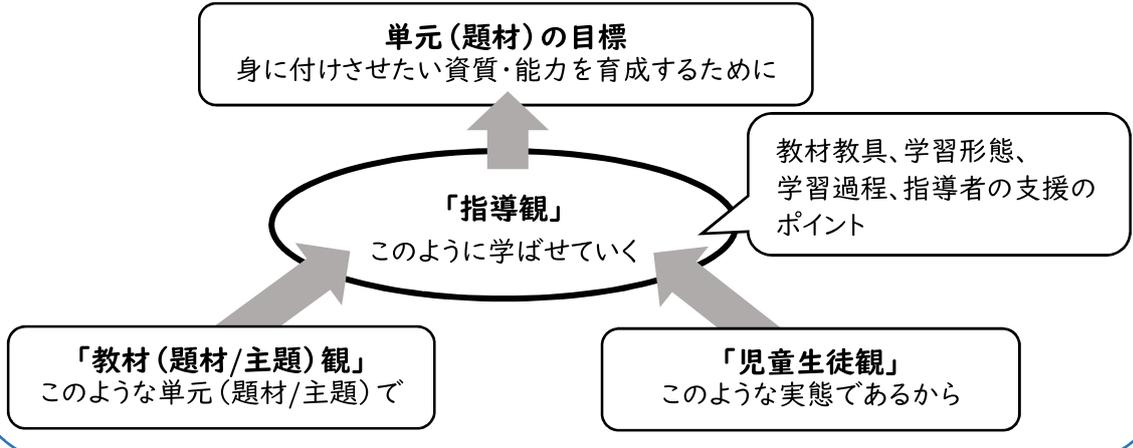
本単元は、□□□□しながら、□□□□できるように学習を進めていく。そのために、第1次では、□□□□することができるように、□□□□する活動を設定する。...



「指導観」は、単元をどのように指導していくのかを具体的に書いていけばいいですね。

そうですね。

教材がもつ価値(教材観)や児童生徒の実態(児童生徒観)をふまえて、単元(題材)の目標を達成するために、どのように指導するのか具体的に書いていきましょう。



特別活動では、「議題(題材)選定の理由」として、議題(題材)が選定された背景や、指導観などについて書きます。

単元(題材)の目標を達成するために

本題材では、音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせて理解し、...の技能を身に付けながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学びとしたい。

教材教具、学習形態、学習過程、指導者の支援のポイント

旋律をつくる際、タブレット端末を活用する。自分のつくった作品を自分で演奏することや記譜することに苦手意識をもつ生徒が、試行錯誤しながら...学習に主体的に取り組むことにつながると考える。なお、ミニキーボードも用意し、自分で選択しながら創作できるようにする。

活動の途中でグループ活動を取り入れ、表したいイメージとつくっている音楽との関わりについて伝え合ったり、...生徒同士の間発表や相互発表の場を設け、お互いのよさを伝え合ったりしながら、...生徒が表したいイメージを明確にしたり考えを深めたりできるようにする。...生徒の、生活や社会の音や音楽、音楽文化への関心を高められるようにしたい。

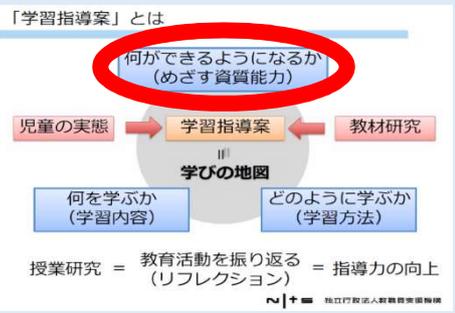
☑チェックポイント

参考例: 中学校・音楽

□教材観と児童生徒観をふまえ、単元(題材)の目標を達成するための指導方法が記述してある。

□教材教具、学習形態、学習過程、支援のポイントなど、指導者の意図的な工夫や手立てが記述してある。

(7) 「単元(題材)の目標(ねらい)」



2. 単元(題材)の目標(ねらい)



- (1) □□□□□□□□できる。[知識及び技能]
- (2) □□□□□□□□できる。[思考力, 判断力, 表現力等]
- (3) □□□□□□□□しようとする。「学びに向かう力, 人間性等」

単元目標=単元のゴールのことですよ。
身に付けさせたい資質・能力を3つの柱ごとに書けばいいですか？



まずは、学習指導要領や学習指導要領解説で身に付けさせたい資質・能力を明確にしましょう。
単元目標は、資質・能力の3つの柱、
「知識及び技能」「思考力, 判断力, 表現力等」「学びに向かう力, 人間性等」で書きます。
これを、以下のどちらかに統一して書きましょう。

指導者の指導目標	(指導者が主語)	「~できるようにする。」「~を身に付けさせる。」
児童生徒の学習目標	(児童生徒が主語)	「~できる。」「~する。」「~を味わう。」

下の参考例のように、身に付けさせたい資質・能力の3つの柱を総括して、1文(程度)にまとめる場合もあります。



☑チェックポイント



出典: 学習指導案の書き方: 基礎的研修シリーズ No.14 NITS 独立行政法人教職員支援機構

<input type="checkbox"/> 学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい資質・能力が記述してある。		
<input type="checkbox"/> 目標上の主語が統一してある。	<input type="checkbox"/> 身に付けさせたい資質・能力の3つの柱を総括して記述してある。	
柱別パターン	総括パターン	
国語/算数/数学/中・理科/美術/家庭/体育/保健体育	中・社会/音楽/図画工作	小・社会/小・理科/生活/技術/外国語活動/外国語/総合的な学習の時間
<p>参考例: 小学校・算数</p> <p>(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。</p> <p>(2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。</p> <p>(3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。</p>	<p>参考例: 中学校・総合的な学習の時間</p> <p>地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、働くことの意味を自分との関わりで考えるとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。</p> <p>※各教科の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に記載された事例から、2パターンにまとめて示しています。</p>	



道徳科では「ねらい」として、内容項目を基にねらいとする道徳的価値や道徳性の諸様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度)を端的に表したものを書きましょう。

(8) 「単元(題材)の評価規準」

⑥

2. 単元(題材)の目標
- (1) □□□□□□□□できる。[知識及び技能]
 - (2) □□□□□□□□できる。[思考力, 判断力, 表現力等]
 - (3) □□□□□□□□しようとする。「学びに向かう力, 人間性等」

3. 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
□□□□□□□□している。	□□□□□□□□している。	□□□□□□□□しようとして いる。

そもそも評価規準って? どうやって書けばいいですか?
「ひょうかきじゅん」には、評価規準と評価基準と2つあるけれど・・・。



評価規準とは、「観点別学習状況の評価」を的確に行うための、評価の拠り所となる
ものです。内容のまとまりごとの評価規準をふまえ、評価の3つの観点、
「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に分けて書きます。
その際には、単元目標の資質・能力の3つの柱、
「知識及び技能」「思考力, 判断力, 表現力等」「学びに向かう力, 人間性等」と正対するよう
に書きましょう。



2つの「ひょうかきじゅん」の違いについて。

評価規準	評価基準
児童生徒に付けたい資質・能力を、「おおむね満足できる」状況の具体的な児童生徒の成長した姿として文章表記したもの	身に付けたい資質・能力の習得状況の程度を明示するための指標を、数値(1/2/3)や記号(A/B/C)、または文章表記で示したもの

評価規準
で示された

⑩ 本時の学習
「評価」はコレ!

参考例: 小学校・算数(単元目標と対応)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ① <u>包含除や等分除など、除法の意味ついて理解し、それが用いられる場合について知っている。</u> ② <u>除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。</u> ③ <u>割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>除法が用いられる場合の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。</u> ② <u>余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて考えようとしている。</u> ② <u>除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など)</u>

「～している」「～しようとしている」等で児童生徒の状態を表現!

☑チェックポイント

- 評価規準が単元目標と正対する関係で記述してある。
- 評価規準の各観点には、「おおむね満足できる」状況の具体的な児童生徒の成長した姿が記述してある。
- 文末が、児童生徒の状態を示す「～している」「～しようとしている」等の表現で記述してある。

(9) 「単元(題材)の指導と評価の計画」

5. 単元(題材)の指導と評価の計画(全□時間 本時 □/□)

時	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
2	・□□□について□□□と関連付ける。	・□□□について例を示す。	[知識・技能] □□□することができる。(ノート・発言)
3 ④ 本時	・□□□について□□□発表する。 ・□□□について□□□交流する。	・□□□して、□□□を確認する。 ・□□□するよう配慮する。	[主体的に学習に取り組む態度] □□□しようとしている。(観察・ワークシート)

「単元の指導」と「単元の評価規準」を表にまとめるところですよ。
コツはありますか？



単元目標と単元の評価規準で設定したことを、どの時間に、どのように指導し、どう評価するか、の計画を立てていきます。項目は大きく2つに分かれています。

	ねらいや学習活動について	評価について
例	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを達成するための<u>具体的な学習活動</u> (「どのようなこと」を「どのようにして行う」のように) ・児童生徒の反応や思考の流れ ・指導のねらいや手立て等 	<ul style="list-style-type: none"> ・精選した観点とその<u>具体的な評価方法</u> (発言、ノート、ワークシート、ペーパーテスト等) ・「指導に生かす評価」(総括の資料としない) ・「記録に残す評価」(総括の資料となる)

このようなことを、1時間ごと、または第1次からまとめましょう。評価については、各時間のねらいにふさわしい観点にするとともに、記録に残す場面を精選することが大切です。

単元を通して、総括的な評価をつける前に、
☆ 児童生徒の学習状況を明らかにし、学習改善につなげたい!
☆ 指導者の指導の状況を明らかにし、指導改善につなげたい! ですね。



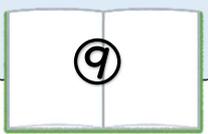
●学習のねらい・学習活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1. 発想や構想と撮影(3時間) ●写真作品を鑑賞し、主題と写真表現の特性や効果について理解する。 ・写真作品を基に形や色彩、光、空間や遠近感、アングルや主題について話し合う。	知 ↓		態表 ↓	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 知形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り、できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 態形や色彩、光、空間や遠近感、アングルに着目したり、主題と表現の効果について理解しようとする意欲や態度を見取り、できていない生徒に対して主題の内容から写真作品を再度見つめさせるなどの指導を行う。 【活動の様子、ワークシート】 </div>

☑チェックポイント

参考例: 中学校・美術

- 児童生徒が実際に行う学習活動を「どのようなことを」「どのようにして行う」のように、具体的に記述してある。
- 評価規準が、各時間のねらいにふさわしい観点と精選された場面で記述してある。
- 評価方法が、発言、ノート等、具体的に見取ることができるもので記述してある。

(11) 「本時の学習（展開）」



(1) 目標（ねらい）

□□□□□□□□を通して（によって/することにより/して）、□□□□□□□□□□する。

(2) 展開（□/□時間）

時	学習活動と予想される児童生徒の反応	教師の支援（・）と評価
5分	1. □□□□□□□□□□する。 めあて □□□□□□□□□□を通して（によって/することにより/して）、□□□□□□□□しよう	・□□□□□□□□□□するために、□□□□□□□□□□を確認する。
15分	2. □□□□□□□□□□について話し合う。 ・□□□□□□□□□□だと思う。 ・□□□□□□□□□□できそうだな。	・□□□□□□□□□□できるように助言する。 ・□□□□□□□□□□を使ってできるように□□□□□□□□□□を



「本時の学習」は、「単元の指導と評価の計画」の「本時」と合うものでないといけませんか？

そのとおり！「単元の指導と評価の計画」の「本時」と整合性を取りながら、展開の部分には、児童生徒を主語とした学習活動と、その際に予想される児童生徒の反応を書きます。教師の支援においては、本時の目標（ねらい）を達成するために、学習活動における指導の工夫や手立てを具体的に書きましょう。今求められている主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、問題解決的な学習過程で展開していけるとよいですね。また、評価規準を見取る場面と方法も忘れずに書きましょう。



単元目標: 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

本時の目標: 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、（ねらい）誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

「めあて」に対する「まとめ」「ふりかえり」が、設定してあれば、一般化した学びとなります！

めあて お互いをよく知るために自分の好きなものや欲しいものを工夫して伝え合おう！

ワーク ①My Study Time（準備&練習）
②インタビュー活動（バースデイカードを送る）

まとめ Whatで質問すると「なに」の部分がわかる
知りたいことがピンポイントでわかる 具体的に

ふりかえり ・ふかばりする質問を友だちに質問できて、新しい一面がわかった！
・聞き取れなかったとき、友だちがゆっくりはっきり言い直してくれた。
・相手に合わせてコミュニケーションするって大切だなと思った。

参考例：小学校・外国語

☑チェックポイント

- 学習活動は、児童生徒を主語として記述してある。
- 教師の支援は、本時の目標（ねらい）を達成するための具体的な指導の工夫や手立てが記述してある。
- 評価規準を見取る適切な場面と方法が記述してある。

(12) 「学習指導案の書き方」に関する資料

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

小学校・中学校 (令和2年3月 国立教育政策研究所)
 高等学校 (令和3年8月 国立教育政策研究所)

乳幼児期から高等学校までの学びの連続性
 (系統性)を意識することが大切です!



<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>



	小学校編	中学校編	高等学校編
国語			
社会/ 地理歴史/公民			 地理歴史 / 公民
算数/数学			
理科			
生活			
音楽/芸術(音楽)			
図画工作/美術/ 芸術(美術)/ 芸術(工芸)			 芸術(美術)/芸術(工芸)

家庭/技術・家庭/ 共通教科(家庭)/ 共通教科(情報)			  共通教科(家庭) / 共通教科(情報)
体育/保健体育			
外国語活動 /外国語	 外国語・外国語活動		
総合的な学習の時間 /総合的な探究の時間			
特別活動			

○学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 道徳科の特質を生かした学習指導の展開 (1)道徳科の学習指導案

・小学校 P.80

<https://x.gd/VuAJ>



・中学校 P.78

<https://x.gd/0YefM>



○しまねの教育情報 Web (島根県教育委員会)



<https://eio-shimane.jp/>



研究大会の
学習指導案や
参考資料が掲載
してあるんだ!



・【令和2年度版】学習評価ガイド[小学校・中学校]

<http://eio-shimane.jp/curriculum/683>



・【令和4年度版】学習評価ガイド[高等学校]

<http://eio-shimane.jp/curriculum/817>



二次元コードをスキャンまたはクリックすると見ることができます!

○発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践手引き (国立教育政策研究所 教育課程研究センター)



幼保小連携・接続に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を入れたいですね!

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_180322.pdf



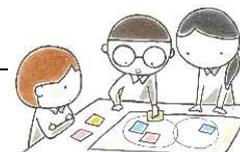
☑チェックポイントリスト



単元名	<input type="checkbox"/> 学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。
	<input type="checkbox"/> 単元名(題材名/主題名/議題)が教科、領域に応じた表記になっている。
単元の目標	<input type="checkbox"/> 学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい資質・能力が記述してある。
	<input type="checkbox"/> 目標上の主語が統一してある。(柱別パターン)
	<input type="checkbox"/> 身に付けさせたい資質・能力の3つの柱を総括して記述してある。(総括パターン)
単元の評価規準	<input type="checkbox"/> 評価規準が単元目標と正対する関係で記述してある。
	<input type="checkbox"/> 評価規準の各観点には、「おおむね満足できる」状況の具体的な児童生徒の成長した姿として記述してある。
	<input type="checkbox"/> 文末が、児童生徒の状態を示す「～している。」「～しようとしている。」等の表現で記述してある。
教材観	<input type="checkbox"/> 何を学ぶか(学習内容)、何ができるようになるか(めざす資質・能力)が記述してある。
	<input type="checkbox"/> どのようなつながりがあるか(他学年、他教科、領域・分野、実生活等)が記述してある。
	<input type="checkbox"/> その単元(題材/主題)を取り扱うことにより期待される効果が記述してある。
児童生徒観	<input type="checkbox"/> 単元(題材/主題)に対する学習履歴、興味・関心の度合い等が記述してある。
	<input type="checkbox"/> 単元(題材/主題)に対する理解度、習熟度等が記述してある。
	<input type="checkbox"/> 単元(題材/主題)に対する児童生徒の実態(よさや課題)が記述してある。



指導観	<input type="checkbox"/> 教材観と児童生徒観をふまえ、単元(題材)の目標を達成するための指導方法が記述してある。
	<input type="checkbox"/> 教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなど、指導者の意図的な工夫や手立てが記述してある。
	<input type="checkbox"/> 児童生徒が実際に行う学習活動を「どのようなことを」「どのようにして行う」のように、具体的に記述してある。
単元の指導と評価の計画	<input type="checkbox"/> 評価規準が、各時間のねらいにふさわしい観点と精選された場面で記述してある。
	<input type="checkbox"/> 評価方法が、発言、ノート等、具体的に見取ることができるもので記述してある。
	<input type="checkbox"/> 本時の目標(ねらい)と評価(評価基準)が「単元の指導と評価の計画」内の「本時」部分と整合性が取れている。
本時の学習(目標&評価)	<input type="checkbox"/> 本時の目標(ねらい)と評価(評価基準)が正対する関係で記述してある。
	<input type="checkbox"/> 評価(評価基準)を具体的な子どもの姿で記述してある。
	<input type="checkbox"/> 学習活動は、児童生徒を主語として記述してある。
本時の学習(展開)	<input type="checkbox"/> 教師の支援は、本時の目標(ねらい)を達成するための具体的な指導の工夫や手立てが記述してある。
	<input type="checkbox"/> 評価規準を見取る適切な場面と方法が記述してある。
	<input type="checkbox"/>



参考文献・引用文献

- ・中央教育審議会(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm (2025.3.7確認)
- ・中央教育審議会(2022)「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm (2025.3.7確認)
- ・島根県教育センター(2024)島根県初任者研修 教育センター研修における「授業づくり」の研修ハンドブック
- ・島根県教育センターオンデマンド資料(2024) 校内研究の進め方と研究主任の役割
- ・島根県教育センター(2009)校内研究・研修ハンドブック
- ・島根県教育委員会(2025)しまねの情報 Web EIOS <https://eio-shimane.jp/> (2025.3.7 確認)
- ・浜田市教育委員会 学力向上推進室(2024)【解説編】令和6年度 子どもの声でつくる授業
- ・浜田教育センター(2008)ウォーミングアップ・ブック
- ・福岡市教育センター みんなですすめようふかめよう 校内研究
- ・大分県教育センター(2023)学校の教育目標達成をめざす校内研究ハンドブック
- ・宮城県大河原教育事務所(2018)授業改善・授業力向上をめざす校内研究の進め方 ～協働による授業づくりを通して～
- ・京都府総合教育センター(2021)学習指導案ハンドブック
- ・久留米市教育センター(2022)学習指導案 書き方の基礎・基本 改訂版
- ・国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・NITS 独立行政法人教職員支援機構(2023)学習指導案の書き方 基礎的研修シリーズNo14
- ・澤井陽介(2024)校内研究のつくり方～教師自らがともに学ぶ主体的・対話的で深い研究を実現する!～ 東洋館出版社
- ・村上聡恵・岩瀬直樹(2020)「校内研究・研修」で職員室が変わった!～2年間で学び続ける組織に変わった小金井三小の軌跡～ 学事出版
- ・水戸部修治(2020)教材研究から学習指導案まで丸ごとわかる!小学校国語 研究授業パーフェクトガイド 明治図書
- ・葛原順也・花岡隼佑(2024)ごく普通の公立小学校が校内研究の常識を変えてみた 明治図書
- ・丸岡慎弥(2023)研究主任 365日の仕事大全 明治図書
- ・ユーザーローカルテキストマイニングツール(<http://textmining.userlocal.jp/>)による分析